

古墳とヤマト政権

3世紀中頃から大和（奈良）を中心に、古墳という巨大な墳丘をもつ墓が出現した。以降、7世紀までを古墳時代と呼ぶ。広域にわたる画一的な古墳の特徴から、古墳時代にはヤマト政権という政治的連合が存在したと分かる。古墳の特徴は、このヤマト政権と朝鮮半島の関係から、時代を通して変化していった。

○古墳時代のはじまり

●古墳の登場

弥生時代には、墳丘墓など様々な墓が出現した。

→中国の歴史書から倭国の記述が消えた頃（3世紀中頃）から、

大和（奈良）を中心に⁽¹⁾ _____ が営まれはじめた。

⇒(1) が営まれる3世紀中頃～7世紀を(1)時代と呼ぶ。



図1 円墳（左）・方墳（右）

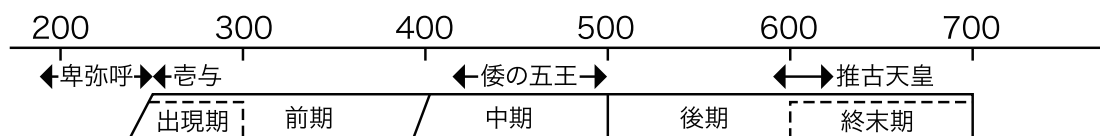


図2 古墳時代の時期区分

< 墳丘墓と古墳の特徴の違い >

①圧倒的な大きさ（ほとんどが全長 100m 超え）

② 棺^{ひつぎ}の外側に圧倒的な数の⁽²⁾ _____

③斜面に葺石^{ふきいし}、丘の部分に土製の焼き物⁽³⁾ _____

◇古墳時代前期の^{はしはか}箸墓古墳（奈良）は全長 280m

◇様々な形（円墳・方墳など）の中で、前方後円墳が最大規模

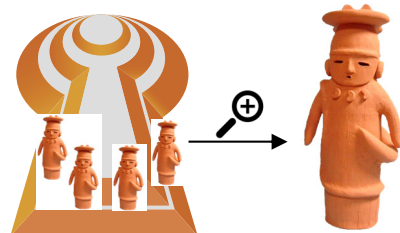


図3 前方後円墳



図4 埴輪

●大和を中心とする政治的連合

上記①～③の特徴をもつ墓「古墳」が近畿～九州に広く分布する。

⇒広域にわたる政治的連合が存在したと考えられる。



出現期の古墳は、大和（奈良）の^{はしはか}箸墓古墳が最も大きい。

→政治的連合の中心が大和にあったと考えられる。

⇒大和を中心に存在したこの連合を⁽⁴⁾ _____ と呼ぶ。



図5 箸墓古墳（墳丘長 280m）

○古墳時代の概観

●時期ごとの特徴の推移

< 古墳の形 >

〔前期〕



やはり前方後円墳が大きい

〔中期〕



前方後円墳、巨大化

〔後期〕



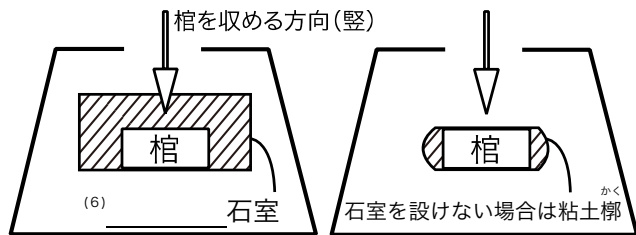
近畿では依然大型



地方では小型化や、それらがまとまった⁽⁵⁾ _____ が出現

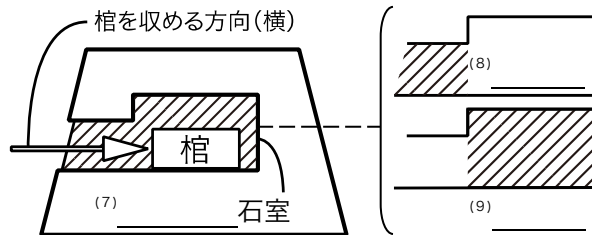
<古墳内部の構造>

〔前・中期〕



棺を収めた後、入口を完全にふさぐため、
どちらも使い切り（追葬不可）で個人用

〔中・後期〕



大陸から伝来した構造で、後期に各地に普及
入口を完全にふさがないため、追葬可能で一族用

<副葬品>

〔前期〕

被葬者は「⁽¹⁰⁾ _____ 的性格」をもつ



図6 玉（左）・玉（中）・腕輪（右）

〔中・後期〕

被葬者は「⁽¹¹⁾ _____ 的性格」をもつ

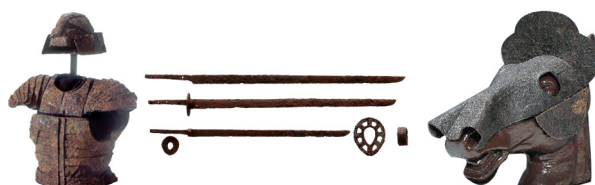


図7 甲冑（左）・刀剣（中）・馬具（右）

<埴輪>

〔前期〕

⁽¹²⁾ _____ 埴輪が中心



図8 円筒埴輪

〔中・後期〕

⁽¹³⁾ _____ 埴輪も多く製作



図9 形象埴輪（左：家型埴輪、中：動物埴輪、右：人物埴輪）

●後期から出現する特徴

<石人・石馬>

九州に多く分布



図10 石人・石馬

<装飾>

石室に幾何学的模様などを施した⁽¹⁴⁾ _____ 古墳の出現



図11 装飾古墳



図12 装飾（壁画）古墳

◇(11)のうち、絵画のものを厳密には「壁画古墳」と呼称

●代表的な古墳

〔前期〕

箸墓古墳（卑弥呼の墓！？）

〔中期〕

⁽¹⁵⁾ _____ （大阪、規模1位、仁徳天皇）
菅田御廟山古墳（大阪、規模2位、**応神**天皇）

〔後期〕

⁽¹⁶⁾ _____ （奈良）
吉見百穴（埼玉、群集墳）